

第1回洋上風力関係船舶確保のあり方に関する検討会

(議事概要)

日時 令和7年3月28日(金) 15時00分～17時00分

場所 AP 赤坂グリーンクロス (対面・WEB 会議併用)

1. 事務局及び産業界より、資料に基づいて説明を行った。
2. 意見交換において、以下のような議論があった。
 - 必要となる隻数の推定とともに、船員需要についても検討して頂きたい。
⇒ (事務局) 本検討会においては船用機器を含む関連船舶に関する検討に絞って検討する。
 - 隻数の推定について、事業者が設定する工程をどのように考えているのか。
⇒ (事務局) 現時点では、「浮体式洋上風力発電の海上施工等に関する官民WG」において整理した施工シナリオを踏襲する予定である。
 - 事業者の作業時間について、1日8時間に限定するかどうかによって作業時間が変わってくるが、その点を考慮するのか。
⇒ (事務局) 今後、業界からいただくご意見を参考に、前提条件を明確にした上で隻数のトレンドを見ていく予定である。
 - 本検討会における試設計については日本限定が良いのか、少し広いエリアで考えた方が良いのか事務局で検討頂きたい。
⇒ (事務局) 本検討では我が国周辺海域における施工を対象にしているため、まずは同海域での施工に適した設計を調査する予定である。
 - 部材を横持ちすることが考慮されていない。遅延しないという前提で推計を行うのか。
⇒ (事務局) 現時点では、基地港と設置サイトの往復を想定して試算を行うこととし、横持ちの時間は加味しない予定である。
 - 「港湾区域の2案件の実績から、15隻をCTV1隻でカバーする」とあるが、秋田港についてはCTVで速やかに現場へ向かえる。促進区域は5km、10km離れているため、同じ考えで良いのではないか。
⇒ (事務局) 今後、業界からいただくご意見を参考に、維持管理シナリオをまとめていきたい。
 - SOVについて「離岸距離」とあるが、本質は「港湾からの距離」と考えられる。SOVの要否は港湾であるため「港湾からの距離」が妥当ではないか。
⇒ (事務局) ご指摘のとおりである。
 - 「浮体への風車搭載」の項目において、「起重機船/SEP船」と記載しているが、この2つ

の船は機能が異なるため、「/」で一括りにして良いのか。

⇒（事務局）既存の文献調査から設定しているが、今後、業界からいただくご意見を参考に定めていきたい。

○曳航にアンカーハンドラーは必要無いのではないか。

⇒（事務局）欧州の実績では、曳航とその後係留作業に継続するのが一般的であるため、アンカーハンドラーを 1 隻と設定した。今後業界からいただくご意見を参考に定めていきたい。

○維持管理シナリオにおいて浮体式 100 基の設備を SOV 1 隻と CTV 2 隻でカバーできるかは基地港湾からの距離にもよるのではないか。

⇒（事務局）維持管理シナリオにおける SOV と CTV の体制についても、今後、業界からいただくご意見を参考に定めていきたい。

以上